

よみがえれ！  
有明訴訟弁護団  
(後藤富和)発行  
092-512-1636  
090-9602-0700

# 政権交代で開門に期待／大牟田



【読売11月30日】国営諫早湾干拓事業(長崎県)を巡り、堤防の排水門の常時開放などを国に求めて訴訟を起こしている漁業者らを支援する市民グループ「よみがえれ！」有明海訴訟を支援する大牟田の会(古賀久任会長)は28日夜、大牟田市総合福祉センターで集会を開き、政権交代による開門実現に期待を寄せた。

現在の情勢や経緯を把握してもらい、開門に向けた活動への参加を呼びかけようと企画し、約100人が参加した。

集会では、原告弁護士事務局長の堀良一弁護士が登壇。アオコが大量発生した調整池から毒素が検出さ

れたことや2008年6月、佐賀地裁が排水門の開放を国に命じる判決を下したことなどを説明し、「(政権交代は)千載一遇のチャンス。集会の熱気を開門に向けた力に変えていこう」と呼びかけた。

来賓で招かれた民主党の野田国義・衆院議員も「開門に向けて努力することを誓う」と話した。



## 野田国義(民主・衆)

コンクリートから人に税金の使い道を変えるのが政権交代の意味。諫早干拓の開門実現がその象徴。農水委員会、総務委員会に属するものとして開門に向け努力する。



## 仁比聡平(共産・参)

昨年6月の佐賀地裁開門判決はわが国の裁判史上燦然と輝く成果。しかし、前政権はアセスの名で開門を先送りし、その間にも有明海異変は進み幾人もの漁民が自ら命を絶つた。開門要求に速やかに答えるか新政権の姿勢が問われている。赤松農相がいう「話し合い」こそ問題解決の道。それならば国がイニシアチブを發揮し協議の場を設置すべき。しかし、赤松農相は漁民と話し合おうとせず漁民が農水省前に座り込みしなければならぬ状況に追い込まれている。来春の開門が必要。

## 多数議員からメッセージ

【大串博志(民主)】有明海の真の再生には一刻も早い開門が必要。政権交代が有明海の真の再生に向け

た歴史的転換点となるよう全身全霊をかけて取り組む。

【緒方林太郎(民主)】公共事業見直し作業の中で(諫早湾干拓は)今後十分な検証があると考える。

【大島九州男(民主)】地域住民・漁民・農家の皆様のご意見を拝聴し政策につなげる。諫早湾と有明海の再生を心からお祈り申し上げます。

【原口一博(民主)】開門調査の必要性は明らかです。宝の海を取り戻すべく国政の場で全力を挙げ

【松野信夫(民主)】水門開放を実現して有明海再生を果たしていかなければなりません。水門開放も有明海再生を願う幅広い地域住民の英知を結集すれば突破できると確信している。潮受け堤防早期開門と農業・漁業の相互の継続的な発展を目指して闘っていく。

【鳩山邦夫(自民)】干拓事業による有明海異変により漁業経営は危機に瀕しており、朋友の皆様が厳しい状態にあることは、誠に遺憾に存じます。この厳しい状況を乗り越え、本当の意味で我が国の漁業の再起に全力を注ぐ決意であります。一日も早い有明海の再生を心より祈念いたします。

他にも、大久保勉(民主)、古賀一成(民主)、藤田一枝(民主)、山村祥史(民主)、松本龍(民主)、山本剛正(民主)からもメッセージをいただきました(敬称略)。